

TORROAD CRAFTART FAIR 2005

トアロード・
クラフトアートフェア

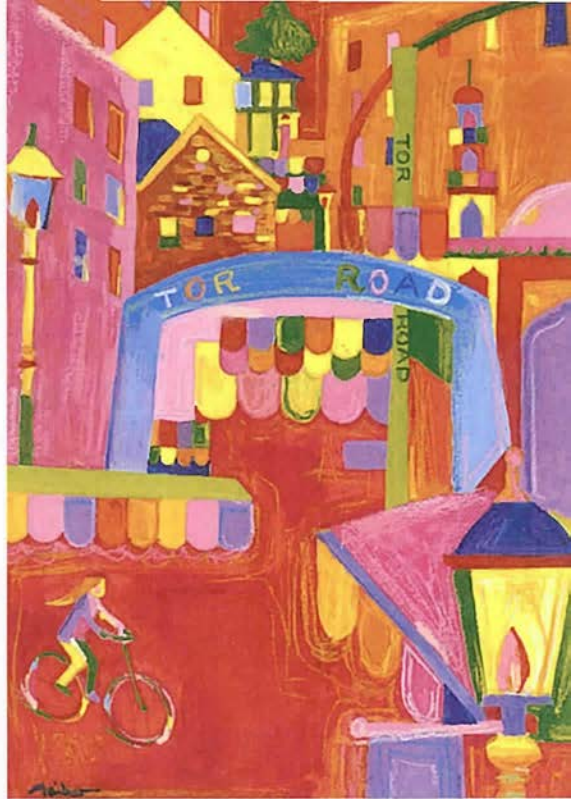
10月8日(土)・9日(日)

10:00~18:00 トアロード一帯

雨天決行 台風等やむをえず中止の場合は翌週15・16日に開催

■問 トアロード・クラフトアートフェア実行委員会 ☎078-801-7992 <http://torcraft.jp/>

トアロードの歩道沿いに、ずらりと並ぶ展示ブース。今年も全国各地から寄せられたたくさんの応募の中から、約50の出展者が選ばれ、それぞれに個性あふれる作品を持ち寄り、展示・販売。陶器、絵画、手芸品、木工、ガラス工芸品、アクセサリなどなど、マイスター自慢の「ここでしかない」商品たちが勢揃い。あなただけのお気に入りの一点を見つけに行こう。



■関連イベント

クラフトアートセミナー

子どもたちが気軽にクラフトに親しめるチルドレンブース、吹きガラス体験などを開催。無料。

ストリートミュージック・似顔絵コーナー

トアロードの街角でミュージシャンがライブコンサート。2日間の間、数回ステージを開催。似顔絵コーナーのブースも企画されている。

秋のイベント情報

KOBE JAZZ STREET

第24回 神戸ジャズストリート

10月8日(土)・9日(日)

12:00~17:00 三宮・北野町・トアロード界隈

■問 神戸ジャズストリート実行委員会総務局 ☎078-232-3211
<http://www.kobejazzstreet.gr.jp/>



★オープニングパレード

両日とも11:00から阪急三宮北側広場より

★会場

神戸外国倶楽部/北野工房のまち/ソネ異人館通/インドクラブ/CROSS/BASIN STREET/MIDNIGHT SUN/GREEN DOLPHIN/DAY by DAY/ソネ/神戸女子大学教育センター/神戸電子専門学校ソニックホール/神戸バプテスト教会/春志音/新神戸オリエンタルホテル
今年は国内外から約300人のプレイヤーが参加。入場券がわりのワッペンをつけて「ジャズのはしご」が楽しめる。

●NHK神戸放送局も会場になります!

無料でジャズコンサートが楽しめます



1日券 4,600円 (前売4,000円)
両日券 8,500円 (前売7,400円)



NHK神戸新会館が
1月17日にオープンしました!
気軽にお越しください!

「おい、ニッポン 私の好きな・兵庫県」

BS2で全国生中継 10月2日(日) 午前11:00~午後6:00

NHK神戸放送局

1階トアステーション恒例イベント

(入場自由)

○毎週水曜日

午後2:30~<トアステ・ピアノ・アフタヌーン>
午後のひとときをピアノ演奏でお楽しみください

○毎週金曜日

午後6:10~<カフェ・トアステーション>
金曜の「ニュースKOBE発」はトアステーションからの公開放送
午後6:30からはジャズの生演奏もお楽しみいただけます



神戸元町 ミュージックウィーク

10月8日(土)～16日(日)

神戸元町周辺地域 神戸元町商店街

■問 元町ミュージックウィーク実行委員会 ☎078-331-1045
ストリートコンサートに関しては ☎078-332-1579 (アルチザンハウス)
<http://mmw.jp>

商店街の中や、周辺の路上、広場などでのストリートコンサート、元町地域のホールでの有料コンサートなどを開催。クラシック、ジャズ、ポップス、民族音楽などジャンルは問わず、期間中は元町一帯がさまざまな音楽に包まれる。

ストリートコンサート

10月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)

場所 大丸神戸店カフェラ前/南町広場/元町商店街一番街東入口/ヤマハミュージック神戸前/グレゴリー・コレ前(三番街)/まちづくり会館(4丁目)/5丁目中央付近/6丁目フォールパーク前/6丁目西入口



ホールコンサート

■WADAホール(和田興産2階)

- 9日(日) 13:30 ピアノのハーモニー
- 12日(水) 19:00 モダンアンサンブル
との出逢い
- 15日(土) 14:00 女声合唱団
とおんきごう演奏会
- 16日(日) 15:00 バーカッション
“たまた箱”コンサート

■ユーハイム3Fホール

- 8日(土) 14:00 華麗なる
チェロアンサンブルの響き!
- 運命～宇宙戦艦ヤマト!
- 9日(日) 14:00 アンサンブル“奏”
秋のコンサート

■神戸新聞松方ホール

- 11日(火) 19:00 元町から生まれた音楽
～スクエアピアノと神戸中央合唱団

■ホテルオークラ神戸(チャペル・リバージュ)

- 12日(水) 19:00 保野ゆみ ヴィオラの調べ
- 13日(木) 19:00 金関環 無伴奏パハの
タペ
- 14日(金) 19:00 フラワーミュージック・
ファッションショー
(花にちなんだ世界の名曲をチャペルで)

その他、神戸市立博物館、神戸中央郵便局、神戸風月堂ホール、エスタシオン・デ・神戸、丸太や、ヤマハミュージック神戸、アマテウス、Jazz CAFE M&Mでコンサートを開催



秋のイベント情報

秋の文化イベントスタンプラリー

神戸アートウォーク2005

9月1日(木)～12月11日(日)

■問 神戸市民文化振興財団 ☎078-351-3597

この秋、神戸で開催されるさまざまな文化イベントをめぐり、会場に設置されているスタンプを集めて応募すると、すてきなプレゼントが当たるスタンプラリー。賞品は、シーサイドホテル 舞子ビラ神戸宿泊券をはじめ、人気レストランの食事券、美術展の招待券、オリジナルグッズなど多数。まずは右のイラストのチラシ(スタンプシート)をゲットしよう。

対象イベントのご紹介

オペラ界の新星

田島茂代 ソプラノ・リサイタル



バッハやモーツァルトの作品に適している声を持つ、と評価されるソプラノ歌手・田島茂代。声の美しさのみならず、抑制されたヴィヴァルティを用いた様式感あふれる曲の解釈、豊かな表現が魅力。リヒャルト・シュトラウス作曲の歌曲、日本の歌曲を歌う。

日時 10月9日(日) 15:00

場所 シーサイドホテル 舞子ビラ神戸

<http://www.maikovilla.co.jp>

☎078-708-8888

料金 4,500円(前売4,000円)

主な対象イベント

神戸ジャズストリート/トアロード・クラフトアートフェア/第10回アニメーション神戸/神戸元町ミュージックウィーク/神戸100年映画祭/fls「アンデルセン生誕200周年記念・北欧フェア」/神戸市演奏協会演奏会ほか

主な会場

兵庫県立美術館/神戸ファッション美術館/神戸市立博物館/大丸ミュージアムKOBE/神戸市立小磯記念美術館/神戸国際会館こくさいホール/コープこうべ生活文化センター/神戸新聞松方ホール/神戸文化ホール/神戸アートビレッジセンター/シーサイドホテル 舞子ビラ神戸ほか



神戸アートアニュアル2005

「眺めるに触れる」(仮)

関西在住の若手作家の発掘・育成を目的に、コンテンポラリーアートの可能性を追求するユニークな展覧会。若手作家の斬新で、みずみずしい表現があふれる。

日時 10月22日(土)～11月13日(日) 11:00～20:00

場所 神戸アートビレッジセンター(KAVC) ギャラリー

<http://www.kavc.or.jp> ☎078-512-5500

料金 無料

復興KOBE
**PERFORMANCE
 STREET**

三ノ宮南にちんどんが集結!



華乃家ケイ率いる浪花のちんどん屋「華乃家」

JR三ノ宮駅南から磯上公園、フラワーロードから国際会館の三ノ宮南地区で開催。個性的なカフェやショップなどが並ぶこの地域に、神戸・大阪のちんどん隊が集まって、にぎやかなパレードが行なわれるほか、磯上グラウンドではフリーマーケット、実力派インディーズバンドによるミニライブコンサートなどが予定されている。

Information

11月12日(土) 13時スタート

※雨天中止(小雨決行)

■問 三ノ宮南まちづくり協議会

☎078-231-4970 (9:00~17:00/月~金曜)

Jazz&Talk Special Concert

帰って来た 11PM

かつての出演者と、そのジュニアが繰り広げる、
 ごきげんなジャズと楽しいトーク。



伝説の番組「11PM」が帰ってくる。

父・小曽根実とともに6歳で同番組に出演した小曽根真や25年間ホストをつとめた藤本義一らが出演。「A列車で行こう」「帰ってくれたらうれしいわ」など、スタンダードナンバーをお楽しみください。安藤孝子、小曽根啓、畑浩史、奥村英夫ら豪華出演陣も参加。

Information

11月11日(金) 18時30分開演

神戸文化ホール

(地下鉄「大倉山」駅下車すぐ)

■問 神戸文化ホール ☎078-351-3597

前売 4,500円
 当日 4,800円

秋のイベント情報

ウーロン亭ちゃ太郎の

オペラ落語 引退公演



おもしろおかしくオペラの世界へと誘うオペラ落語。その創作者、ウーロン亭ちゃ太郎の引退公演が神戸にやって来る。有名なアリアを地声のバリトンと裏声のカウンターを絶妙に使い分け歌い上げながら、オペラのおもしろさとストーリーを落語の口調で解説。地声は50歳までという持論から今年で引退するため、神戸では今回が最後の公演となる。神戸で2公演、三田で1公演が開かれる。

Information

10月7日(金) 19時開演
会場:神戸新聞松方ホール ホワイエ
JR神戸または地下鉄
ハーバランド下車徒歩約5分
■ヴェルディ「椿姫」 ■モーツァルト「魔笛」
■問 松方ホールチケットセンター ☎078-362-7191
神戸芝居カーニバル実行委員会 ☎090-1914-4907(中島)

前売 2,200円
当日 2,500円
友の会 2,000円

10月8日(土) 19時開演
会場:サロンド あいり
三宮下車徒歩約5分
■ブッチェニ「トスカ」
■モーツァルト「フィガロの結婚」
■問 サロンド あいり ☎078-241-1898

前売 4,000円
(1ドリンク+家庭料理付)

10月9日(日) 14時開演
会場:三田市立ウッディタウン市民センター大集会室
ウッディタウン中央下車徒歩約10分
☎079-565-2443
■レハール「メリー・ウイドウ」
■マスカニ「カバレリア・ルスティカーナ」
■問 田中和人 ☎079-569-1225 小川佳子 ☎079-565-2007

前売 2,000円
(1ドリンク付)

呉錦堂生誕150周年記念 移情閣フォトコンテスト 入選者作品展



華僑・呉錦堂氏の別荘として、風光明媚な舞子の地に大正7年に建てられた移情閣。神戸華僑の成功者の一人として名を残した呉錦堂氏の生誕150周年を記念して、彼が愛した移情閣を撮影対象としたフォトコンテストを開催。

応募は9月末日で締め切られたが、入選作品は三江ギャラリーにて展示されるばかりでなく、呉錦堂氏ゆかりの中国浙江省の慈溪市においても展示される。

孫も訪ねたという移情閣。その美しい姿と背景の白砂青松を切り取った写真は、舞子の地に架かる明石海峡大橋のように、日中友好の架け橋になるだろう。

Information

期間・11月1日(火)～10日(木) 会場・三江ギャラリー
神戸市中央区多聞通2-1-12 ☎078-371-8627
JR神戸駅から北へ徒歩約3分 裁判所通り東入る

1905年神戸に生まれた今竹七郎は、日本のグラフィックデザイン界において、先駆的な役割を果たしたデザイナーの一人。

神戸大丸入社を皮切りにグラフィックデザイナーとして活躍し、戦後、企業のアートディレクターとして活躍。「オーバンド」の茶色と黄色の箱、「メンターム」のメンターム・キッドなどのロゴマークも今竹がデザインしたのも。本展では、作品、今竹が集めたコレクション、資料とともに「人間・今竹七郎」の魅力に迫る。



モダンデザインのバイオニア
生誕100年
今竹七郎大百科展

西宮市大谷記念美術館

(阪神「香櫛園」駅下車徒歩10分)

10/8(土)～11/27(日)

水曜休館(11/23開館)

10:00～17:00

一般500円 大高生300円 中小生200円

■間/西宮市大谷記念美術館

☎0798-33-0164

白鶴美術館新館開館10周年記念展「文様の宝庫 オリエンタル絨毯」、同時に秋季展「古代中国青銅器—神秘的の心を見つめて—」を開催。

文様は、文化への通路。古代中国の青銅器にほどこされた奇怪な目の文様は、人々の願い、恐れ、心の現われだろうか。そして、ベルシャトルコ・コーカサスの絨毯は、願い、祈りを込めた文様が形に現れている。

それら文様世界の背後に広がる、オリエンタルの精神風土に思いをはせたい。



白鶴美術館 秋季展
文様の宝庫 オリエンタル絨毯

白鶴美術館

(阪神「御影」、JR「住吉」からバス38系統

渦森台行「白鶴美術館前」下車)

開催中～11/27(日)

月曜休館(10/10開館)

一般800円 大高生500円 中小生250円

■間/白鶴美術館

☎078-851-6001

http://www.hakutsuru.co.jp

戦後60年、震災後10年を機に「やさしさ」をテーマにした作品を上映。10月28日(金)はピフレホールで山田洋次監督を迎え、「男はつらいよ寅次郎紅の花」他を上映。

11月1日(火)～3日(水祝)は諸外国からのヒューマンドラマ、戦争と平和に関する作品から「少女ヘジャル」「ふたりのトスカーナ」などを上映。

4日(金)～6日(日)は神戸アートビレッジセンターで淀川長治氏を偲んで、懐かしのクラシック映画「山猫」「キューポラのある街」「僕の村は戦場だった」などの上映が予定されている。



ハンダン・イベクシ監督作品「少女ヘジャル」(2001年トルコ)

第10回神戸100年映画祭

神戸市立博物館

新長田ピフレホール

神戸アートビレッジセンター

神戸新聞松方ホール

10/28(金)～11/7(月)

1,200円(前売1,000円)3回券2,500円

■間/100年映画祭実行委員会

☎078-332-7050

http://www.5e.biglobe.ne.jp/kff100/

オランダ最大の美術館であるアムステルダム国立美術館は、黄金時代と呼ばれるオランダ17世紀の優れたコレクションによって世界的に知られている。この時代を代表する画家・レンブラントやフェルメールらの作品は、後の美術史に大きな影響を及ぼした。

今回、同美術館のコレクションの中から、フェルメール「恋文」、レンブラント「青年期の自画像」をはじめとする絵画の名品や工芸作品を展示。世界を巡回するこの展覧会は、日本では神戸のみの開催となっている。必見!



オランダ絵画の黄金時代

アムステルダム国立美術館展

兵庫県立美術館

10月25日(火)～1月15日(日)

10:00～18:00(金土曜は20:00まで)

月曜休館(12/28～1/4休館)

一般1,400円 大高生900円 中小生500円

■間/兵庫県立美術館

☎078-262-0901

http://www.artm.pref.hyogo.jp

ジャズライブ&レストラン SONE

- 10/1(土) 新井雅代+トリオ
 2(日) ロイヤル・フラッシュ・ジャズバンド
 3(月) 杉山千絵+トリオ
 4(火) 大越理加+トリオ
 5(水) 辛島寿美子+トリオ
 6(木) Yoshika+トリオ
 7(金) 北莊桂子+トリオ
 8(土) 北莊桂子+トリオ
 9(日) 鍋島直毅クワルテット+新井雅代
 10(月) ロアナ・シーブラ
 11(火) 辛島寿美子+トリオ
 12(水) 谷山和恵+トリオ
 13(木) 北莊桂子+トリオ
 14(金) 北莊桂子+トリオ
 15(土) ベティ鞍富+トリオ
 16(日) 原田紀子・水田欽博+トリオ
 17(月) 升本しのぶ+トリオ
 18(火) キャンディー・浅田
 19(水) 大越理加+トリオ
 20(木) 古谷充クワルテット
 21(金) 新井雅代+トリオ
 22(土) 大越理加+トリオ
 23(日) 甲南Untitled Jazzオーケストラ
 24(月) 矢野麻衣子+トリオ
 25(火) 新井雅代+トリオ
 26(水) 岩宮美和ひきがたり+ギタートリオ
 27(木) 長谷川元伸クワルテット+大越理加
 28(金) 宮野英子+トリオ
 29(土) ジャネット+トリオ
 30(日) モダンタイムス・ビッグバンド
 31(月) 増田真智子+トリオ

■JAZZ LIVE & RESTAURANT SONE

北野坂 078-221-2055 無休

<http://kobe-sona.com>

★ミュージックチャージ900円

★日曜日昼下りのジャズライブ開催中

クラシックライブハウス ピアジュリアン

- 10/2(日) 村上由香&出水世利子(ピアノデュオ)
 5(水) 中村真美(クラリネット)藤溪優子(p)
 6(木) 湯川紗代(フルート)三村哲子(p)

- 8(土) YORAM LEVY(トランペット)朝比奈加代(p)
 9(日) 田原綾子(ソプラノ)森玉美穂(p)
 11(火) 宇田有美子(フルート)鈴木華重子(p)
 13(木) 佐藤和宏(クラリネット)大西隆弘(p)
 14(金) 林典子(p)
 16(日) 羽賀田香(p)
 18(火) 中島悦子(ヴィオラ)林典子(p)
 19(水) 藤川健(テューバ)植田浩徳(p)
 20(木) 小笠原薫(ヴァイオリン)山内尚子(p)
 21(金) 鈴木華重子(p)
 22(土) 並木円(ソプラノ)藤江圭子(p)
 23(日) 金子鈴木太郎(チェロ)林典子(p)
 27(木) 本吉優子(ヴァイオリン)林典子(p)
 28(金) 新保江美(フルート)平山善恵(p)
 29(土) 中鼻佐和(ヴァイオリン)
 30(日) 小横周一(フルート)藤原友紀(p)

■クラシックライブハウス PIA Julien

三宮駅北側近藤ビル9階
 078-391-8081 月曜定休
<http://pia-julien.com>

ジャズクラブ Holly's

- 10/6(木) 高貴みな(vo)杉本亨(p)
 7(金) ゴスペル TheEarthBorn
 8(土) 三浦昌彦(tp)カルテット
 13(日) 鈴木久美子(sax)宗川信(b)他
 15(土) Jazz&ダンス/Wataru&長井美恵子
 20(木) 山本容子(p)他
 21(金) 坂崎拓也(b)清水勇博士(dr)他
 22(土) Robin Eve(尺八) Ron Mason(g) Dave Boyle(vb) 小出恭正(b) 松井道朗(dr) 林幸(he)
 27(木) Session(楽譜持参)
 28(金) 高貴みな(vo)他
 29(土) 荒畑佐千子(vo) 赤松真理(p)他

■KOBÉ JAZZCLUB Holly's

三宮駅北徒歩7分・新神戸駅南徒歩7分
 加納町 078-251-5147
<http://www.kobe-hollys.com>

ライブハウス チキンジョージ

- 10/1(土) Gargoyle
 2(日) 大島保克
 6(木) きたがわてつ&太鼓・三好大地ジョイントライブ
 8(土) Synchronized DNA
 14(金) 亀渕友香&VOJA
 21(金) 永井隆&THE BLUES POWER
 29(土) THE STREET BEATS

■THE LIVE HOUSE CHICKEN GEORGE

生田神社西 078-392-7431
<http://www.chicken-george.co.jp>

ジャズ喫茶 萬屋宗兵衛

- 10/1(土) Kengo.ThreadFlow05
 4(火) ミクロボディウム(ハンガリーの超絶技巧人形劇) / くすのき燕(日本の肩掛け人形芝居)
 6(木) STANDARD HARMONY JAZZ WORKSHOP
 7(金) 浅李Duo(JAZZ)
 8(土) 眞弓庸子(Vo) 殿木戸悟史(B) 泉川美和子(P)(Jazzと歌謡曲)
 10(月) 1st.Naga/2nd.Nancle Nicer
 14(金) シャンソン・プチコンサート
 15(土) EMIKO Project Live Vol.2
 16(日) BabeMagnet BigBand
 18(火) OMUNIBUS(ブラジル音楽)
 19(水) 真田千依 吉川朋子 影山朋子(マリンバ・ビブラフォントリオ)
 21(金) E・T Project Live
 22(土) 金谷こうすけ Go Beyond The Genre!
 23(日) 神戸ジャズ倶楽部 いとう翔ボーカル教室発表会
 24(月) 向原千草(as)他
 28(金) J's BAND
 29(土) 芦屋アブローズ・コーラス
 30(日) JO-JA(ジャズ)

■ジャズ喫茶 cafe萬屋宗兵衛

元町一番街 078-332-1963
<http://www.sobei.net/>
 ★ノーチャージのライブはチップ制

兵庫陶芸美術館
10月1日オープン



菊花文三耳壺 12世紀
個人蔵 重要文化財

日本六古窯のひとつに数えられる丹波焼のふるさと、篠山市に「兵庫陶芸美術館」が開館。10月1日(土)にグランドオープンを迎える。

開館を記念し、12月11日(日)まで特別展「やきものふるさと丹波」名品でたどる800年のあゆみ」が開催される。平安時代に成立した丹波焼は、外部の技術を取り入れながら独自の作風を生み出してきた。本展は、同館が所蔵する田中寛コレクションを中心に、全国各地の博物館や個人所蔵の丹波焼の名品120点を一同に会し、丹波焼の流れを追いその魅力にせまる。10月8日(土)には、東京国立博物館名誉館員・林屋晴三さん、兵庫陶芸美術館館長・乾由明さんが参加した開館記念シンポジウム「いま、陶芸とは何か」が企画されている。

■兵庫県陶芸美術館
篠山市今田町上立杭4
☎079-5997-3996
1
開館10時~19時(金土曜)21時

休館月曜日
料全般800円
大高生600円
中小生400円
http://www.mcaat.jp

ドイツグルメ・ドイツ音楽…
ドイツ秋祭 in 神戸

今年から来年3月までの「日本におけるドイツ年」を記念し、10月8日(土)~10日(月祝)、神戸ハーバーランド高浜岸壁で「ドイツ秋祭」が開かれる。時間は13時~22時(10日は21時まで)。

お楽しみはドイツビールや本場のハムソーセージが楽しめるグルメゾーン。アサヒビールがライセンズ生産しているビール「レーベンプロイ」や、ドイツ各地のワイン、直輸入のハムドイツ料理が楽しめる。ステージではピアノを始め、アルペンホルンやツイッターなどドイツ民族音楽、民族舞踊などが、2006年に開催されるワールドカップに合わせ、ミニサッカーゲーム大会なども企画されている。さあ、陽気なドイツ人とともに、飲んで食べて、楽しもう！

■ドイツ秋祭実行委員会
NPO法人神戸日独協会内
神戸市中央区御幸通8-1-6
神戸国際会館17階
☎078-23008150

心をやさしく包み込む
可愛い縫いぐるみ展

神戸を拠点に活動しているぬいぐるみ工房「PAO工房」が、芦屋のギヤラリー樹で可愛い縫いぐるみ展を開催。

今回の展示は壁面をキャンバスに見たてて、ネコ、ウサギ、カエル、ヤモリなど動物たちを配置、二面縫いぐるみたちで彩られる。

また、ハロウィンにちなんだカボチャやクマなどのコーナーも。テディベア(テディベア+ユニコーン)やカメレオンもラインナップと、ギヤラリー中がユニークでかわいい「PAO工房」の世界に。

なお、期間中の10月22日(土)には、ミニコンサート(3000円・ティナー付き)も。

■ギヤラリー樹
10月19日(水)~11月5日(土)
☎07997317528
芦屋市前田町7-14
JR甲南山手駅南出口より線路沿いを東へ徒歩約10分
日・月・火休
http://www.kcc.zaq.ne.jp/dfx/207/



個性的な「PAO工房」のぬいぐるみ

CONCERT

上松明代
ソロコンサート
Volume 3!

ハンガリー国立リスト音楽院で学び、力強いフルートサウンドと、パーカッションを加えた独自のアレンジなどで、クラシック音楽のためのフルートという概念を大きく覆した演奏が、各地で人気を博しているフルーティスト・上松明代。地元三田でソロコンサートを開く。

クラシック、ラテンの楽曲をはじめ、日本の歌曲、そして今回初公開となる、上松明代作曲のオリジナル作品を披露。ピアノ・林有紀、パーカッション・木村和人。

■11月6日(日)18時30分開演
三田市立ラフォータワー
市民センター
(神鉄公園都市線ラフォータワー駅下車)
前売2000円
当日2500円
☎07824176003
上松明代公式HP
http://www.012.upp.so-net.ne.jp/tvovial



故花柳呂月師唄び 「三ツ桜会」

故花柳呂月三回忌追善舞踊会「三ツ桜会」が、10月30日(日)神戸国際会館こくさいホールで開催される。10時30分開演。

出演は、花柳芳次郎(特別出演)、花柳芳ほか。



花柳芳一

震災10周年記念 大和松蒔 舞の会

第47回「大和松蒔 舞の会」が、10月15日(土)湊川神社神能殿で開かれる。15時開演。今回、阪神・淡路大震災10周年「神戸・あれから十年(追悼の舞)」として地唄「菊の露」をはじめ、笠田昭雄(シテ)らによる能楽・舞囃子「敦盛」が披露される。また、平成17年度文化庁芸術祭参加公演として、近松門左衛門作、中節「隅田川」を大和松蒔が舞う。



大和松蒔

スザンヌ・

ハンザー博士の 音楽療法セミナー

音楽によって、病氣や心を癒す音楽療法。

11月6日(日)、国際音楽療法学会の会長であり、世界各国で音楽療法や精神医学、音楽教育などに関する講演を行なっているスザンヌ・B・ハンザー博士による「音楽療法セミナー」が開催される。音楽療法の実践にあたって、誤った実践方法は大きな危険性を伴う。確実に誤りのない実践をする上で、音楽療法の効果を文書に記録する方法を具体的に解説するとともに、問題点をアドバイスいただく。実践現場で活躍する博士による、誤りのないより効果的な音楽療法を行なうためのセミナー。

同時に、ジャズコンサート、ドラマサークルデモンストレーション、兵庫県音楽療法士会からの活動事例報告が行われる。

神戸ポートピアホールにて、



スザンヌ・B・ハンザー博士

15時開演。前売4,000円
当日4,500円。

■主催/甲陽音楽学院
神戸市灘区篠原南町5-4-1
0120-1175540
<http://www.kogyo.net>

谷川九段の指導対局も

「2005

デュオこうべ将棋 フェスティバル」

デュオこうべ、神戸新聞社が主催する「2005デュオこうべ将棋フェスティバル」が、10月10日(月祝)、デュオードム(JR神戸駅デュオこうべ浜の手)で開かれる。受付は12時30分から、13時開幕。

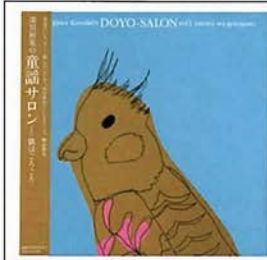
桂九雀が司会進行をつとめ、谷川浩司九段、岩根忍女流初段によるトークショー、谷川九段と若松政和七段が出題する「詰将棋・次の一手解説会」など盛りだくさんの内容。指導対局(81面指し)では、谷川九段、井上慶太八段らが指導に。指導対局は当日受付、参加費500円(参加賞付き)。

SOUND

深川和美的 童謡サロン

ソプラノ歌手・深川和美が京都・東山の法然院などで開いている「童謡サロン」から生まれたCD。

「俵はるゑ」・「村祭」・雨降りお月さん」など、日本の童謡、唱歌、わらべ唄などを、深川独特のまろやかな歌声で歌っている。加えて、チンドン風、ゴスペル風、手拍子足拍子即興など、楽しげな編曲が加えられているのも魅力だ。童謡はこんな風にして、子どもたちがげらげら笑いながら歌っていたもの。「童謡はいますごく新しい。そして、泉の水みたいにオイシイ」とジャーナリスト・榎田隆史は評する。



JMCK-4001
2000円(税込)

このオウムが頭にとまると
そのひとの考えをしゃべるのは
こういうことじゃ



考えるというのは脳の活動、
つまり電気信号じゃ
オウムの足はその信号を
感じとるのじゃね



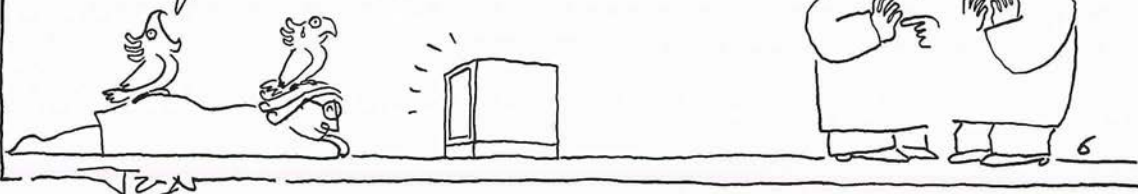
だから ほれ
うでにとまらせても
なにもしゃべらん



考えているところは 頭であり
うでではないということじゃね



おもしろいものを
発明なされたわね



鬼の目、市民の目線

大谷 成章（フリーライター）

剪画／とみさわかよの

「よう、大谷君。元気が」
声をかけられて、ふり返ると、近所に住んでいる新聞社の大先輩だ。

「先輩こそどうですか。具合悪かったと聞きましたか」

「そうなんや。くやしいわ」
脑梗塞で倒れ、回復してきたものの、言葉がまだ少し不自由で、うまく鉛筆を動かせないという。

「大谷君、くやしいよ。10年書き続けたかったけど、ことはあかんわ」

大先輩は『阪神・淡路大震災復興誌』第9巻の福祉分野の最終節を書いているときに体の異変に気づき、自分で1119に電話したが、口から出るのは「* & # \$: .」という音ばかりで、救急隊員を困惑させたらしい。

『阪神・淡路大震災復興誌』というのは大震災の復興記録。600ページから900ページ

もある分厚いものだ。第1巻と第2巻は兵庫県が企画し、財団法人21世紀ひょうご創造協会が発行した。その後は、財団法人阪神・淡路大震災記念協会が企画・発行を引き継いでいる。

いわば、兵庫県の公式記録とも言えるが、学者・研究者による編集委員会の議論に基づいて、新聞社の元記者たちが執筆しているところがユニークだ。役人が書くとおもしろくないし、行政批判はできないだろうから、記者OBに書かせよう、ということだった。

市民の目線で復興の足取りを追っていくという、行政としては珍しい発想もあった。

8人のOB記者が集められた。その当時、『月刊神戸っ子』にいた私にも声がかかり、まちづくり・都市計画の分野を担当することになった。それぞれクセのある元記者だから、学者や研究者の言うことを聞かないおそれがある。

「先輩、ここはきつちり束ねて、締めてもらわないとわれわれは勝手放題にやらかすぞ」と

私たちが脅して、デスクになってもらった。

デスクというのは、マスコミの世界の独特の職務だ。社の組織図や名簿には記載されていないし、名刺に表示することもないが、取材や紙面づくりの実権を握っている。取材を宅配し、原稿をチェックして、あいまいな点があると怒鳴りあげる。デスクといえば「鬼」がつく。「仏のデスク」など、聞いたことがない。

先輩も現役時代は「大鬼」がつくほどで、若い記者はきびしくしごかれた。

そんな鬼の目を意識しながら、私は大震災の被災地、10市10町を歩き、取材した。

第1巻で、復興都市計画事業について「住民参加による復興という千載一遇のチャンスをつかした」「住民との対立という不名誉なスター

ト」などと取材に基づいて記述したが、これは「失敗も批判も記録する真剣な姿勢に基づく復興誌」と全国紙に紹介された。

大震災記念協会の担当職員は、県や神戸市からの出向者だが、都市計画事業に対する住民の訴訟や反対運動を取材し原稿にすると、いやがる職員が多かった。なかには「市の批判が掲載されると市に帰れない」と削除を求める幹部職員もいた。

そんなとき、鬼デスクは「復興とは何や。被災者の復興か、あんたが役所に戻るのか」と一喝してくれた。

私たちは、この秋、最後の第10巻の取材と執筆に取り組んでいる。

第1巻発行の打ち上げのとき、大先輩は「10年続く仕事や。体に気をつけよう」といつていた。10インニングある『復興誌』の9回裏でご本人がベンチに下がったのは残念だ。でも、回復は順調のようだから、再び鬼デスクに戻って、叱咤激励してくれると思うている。



詩画集『神戸、あの日より—1995-故郷』から掲載 「商店街(中央区)」

■大谷 成章(おおたに・しげあき) 1939年但馬生まれ。元神戸新聞記者。震災当時は月刊神戸つ子編集者。その後、フリーライター。「阪神・淡路大震災10年」(共著、岩波新書)など。

「五線紙の街」 神戸を彩った人たち

文・宮田 達夫 絵・中西 省伍



昭和52年5月29日、石阪春生のアトリエで開かれたバーボンクラブ例会の席で、カネボウのコマーシャルソング『ワインカラーのときめき』を歌った新井満が、バーボンクラブの歌を作った。

「バーボンクラブの歌」 作詞作曲 新井満

一、バーボンクラブのBは ビューティフルのB

バーボンクラブのBは ボーイズのB

ビューティフル ボーイズクラブ

ビューティフル ボーイズクラブ

ビューティフル バーボンクラブ

一、バーボンクラブのBは ビューティフルのB

バーボンクラブのBは ボールズのB

ビューティフル ボールズクラブ

ビューティフル ボールズクラブ

ビューティフル バーボンクラブ

神戸市の広報誌『神戸のグループ誕生』に、石阪春生はこう書いた。

「バーボンクラブは、月に一度、会場を持ちまわって開かれています。別に特定の目的を決めているわけではなく、異人館や神戸の文化などをその時々話し合っています。日本人は、何となく寄り合うということに欠けていると思います。結論がないと承知できないところがあるが、この会はみんな違う世界で活躍している者が集まっているところに意義がある。まあ現代忘れられている〈村人の集い〉といった所でしょうか」

「神戸の人達は京都に劣らず集まって飲むのが大好きらしい。男っぽい酒バーボンを飲もうという会が月に一度開かれている。」

『面白半分』の編集長・筒井康隆は面白半分編集長のコーナーで「腹立半分日記」に毎回のように取り上げ、七月二十四日には次のように書いている。

「バーボンクラブの例会で、会員の藤間緑壽郎邸に行き、稽古場で踊りを教わる。なかなか立派な檜舞台である。こういうのが家にも一つ欲しいものだ。」

バーボンを飲みながら一人ずつ舞台へ出て芸をする。小唄一口唄の類が多いのは場所柄で、

皆さん芸達者である。おれはデキシーランドナ
ガウタ越後獅子というのをやる」

本当かどうか定かたではないが、このお陰で「面
白半分」の売れ行きは倍増になったそう。

テレビCFプロデューサー・新井満は、若
い女性12月の『MAN氏の不思議な一週間』
とうエッセイの中で、水もしたたる水曜日のバ
ーボンクラブの紹介記事を覗くと、

「今夜の会合はトリアロードのファッシュンデ
ザイナーの中西省伍さんちの応接間。シャボン
玉の中には庭は入れません。目玉がぐるぐる回
り出しました。つぶやくのはジャン・コクトー
に似た痩せの長身石阪画伯。どうして私がここ
に居るの？叫ぶのは生田神社の加藤宮司、酒を
一滴も一番飲まないのに酔ったように見えるの
は何故か？酔うと指匠師に変身するユーハイム
コンフェクトの西さん。ボンジュールノ〇×□◇
イタリア語で喋りまくるのはヒゲの彫刻家の新
谷琇紀サン。フフと艶笑するのはキャンティの
榊さん。色っぽさと男っぽさでは玉三郎も吃驚
の舞踊の藤間緑壽郎さん。ハッハッハッとテノ
ールで高笑いするのは、ハモンドの名手小曾根
実さん。抱腹絶倒、荒唐無
稽のSF小説とは裏腹に恐
るべき照れ性マジメ人間そ
してアラマンに対抗するわ
けではないが、僕もLPを
出すという作家の筒井康隆
さん。好きな食べ物を言っ
てごらん、君の手柄を当て
てみよう。フリア・サラバ



アラマンこと新井満

ンの如き言葉を発したのは毎日放送MBSナ
ウのディレクターで大の美食家の宮田達夫氏。
演出家女の園の中でという前代未聞の宝塚歌劇
の裏を撮った写真展を成功させた竹内広光氏。
そしてどん尻にひかえしは、百足のワラジを
はくムカデ人間になり、カラージュ人間にナリ
タイトイウ、ワインカラーのとぎめきでベスト
10入りした新井満さんという按配。一周年を
迎えた日は奇しくも十五夜で、センターほんじ
編集長からお祝いの月見ダンゴが到着、バーボ
ンのさかなにするという念のいれよう。

とにかく、人との触れあい出合いというもの
が無くなりかけた現代社会の中、神戸という土
地柄のせいもあるにしても、バーボンクラブの
人たちは出合いとふれあい、そこから個々に受
けるモノ、カラージュされるものを大変貴重な
ものと考え大切にしています。

円卓会議とはよく言ったもので一つのテーブ
ルが二つになってしまうと、もうその意味が無
くなるのです。それだけにこの一つの円卓に座
る人数はものすごく大切でもあるのです。

加藤宮司のクラシッくな座敷、石阪画伯のロ
マンティックなアトリエ、竹内さんのゴールデ
ンスター、中西さんちのプティック、桧舞台付
き藤間緑壽郎さんち、筒井康隆大邸宅と、アッ
チコッチに出向いているんです。」



■宮田達夫（みやた たつを）
一九三六年東京生まれ。毎日放送入社、大
阪府警・大阪市・万国博などの記者クラブ
担当。MBSナウ担当後、報道局兼事業局
次長の二足のわらじで、放送記者として宝塚
歌舞伎を取材。イベントプロデューサーと
しても活躍。元事業局長。バーボンクラブ
会員。フリージャーナリスト。

十人

出石アカル

絵・菅原洗人

題字・六車明峰



「戦後すぐにもう、仕事よおけおましたんや。みんな軍服やら国民服やらを持ってましたよつてにな、それを自分の好きな色に染めに持って来まんねん。それまではみんな地味な色の物ばかり着てましたよつてになあ」

古川富太さん、77歳。父親の代からの染め物屋さんである。

「七男四女、11人兄弟の、わては六男でしてん。そやけどみーんな死んでしもて、今はわて一人になってしもた」

ほかの兄弟は、ほとんどが戦死などで早世し、子どもどころに死んで顔も知らない兄弟も何人

かいると。それで自分が家業を継ぐことになったのだと。昔は若くして亡くなる人が多かったのだ。

古川さん、もう何十年も地域の自治会長をしていて、温厚な人柄が誰からも慕われている。今日も人の世話で走り回っていて、ちよつとコーヒープレークに立ち寄って下さったのだ。

この人からも貴重な戦時体験を聞くことができた。悲惨ではあるが、単に悲惨さだけではない、庶民の、あふれるばかりのたくましき話を。

「徴用で、飛行機のエンジンを作る工場へ行ってたんやけど、その食堂の賄いさんに、え

らい可愛がられて、たんまに銀シャリを内緒で食べさせてもらったことがあります。ちよつと後ろめたい氣イがしたけど、うまかつたなあ。家では、あのま^まずい魅^まを、染め物に使う澱粉で固めて団子にしたんを食べたりしましたよつてになあ」

古川さん、いつも自転車で町内を走り回っているの、顔が日に焼けて丸い目玉がよく目立つ。その、人の良さそうな目をクリクリさせて話して下さる。

「8月5日の空襲で、家は丸焼けですわ。B29が飛んで来るんを、屋根の上の見張り台から親父と一緒に見りました。親父は町内の防空の役員をしよつたから、ぎりぎりまで逃げんと頑張つて、回りを火に囲まれそうになつてから、やつと逃げ出しましてん。逃げる途中で、弾けた焼夷弾の油が頭からかかつたんやけど、夏布団濡らして被つてて助かりました。そら恐オましたで。家、焼けてしもたけど、わてとこはどつこも頼つて行くところないから、焼け跡へ戻つて来ましたんや。途中で、焼け焦げた遺体に乗せた荷車に何台も会いました。そら悲惨なもんやつた」

これに似た話は、これまでもよく聞いたものだが、次の話にわたしは胸うたれてしまった。「まだ小さい火が残つてる焼け跡へ戻つて来て、その火イで、畑で作つたナスビを焼いて食べましたんや。あれはうまかつたなあ」

ご本人、何事もなくサラリと話されたが、何とということか。自分の家が焼かれて、火がまだ燃え残つていて、その火で、自分が作つたナス

ビを焼いて食べるとは。悲しさの中にも、笑い声さえ聞こえて来そうな、妙なユーモアを感じてしまう。人間、万策尽きると、かえつてあつからんとしてしまふものなのか。いやしかし、たくましいものである。

「そんな中で、親父と二人でバラック建ててましてん。素人のすることやから碌なもん建てたしまへんけどな。焼け跡から、まだ燃えよる木材拾うてきて、水かけて消して建てましてんがな。みんなそないしてバラック建てたんですわ。そやけど困つたんはトイレやつた。使えるんが少のうて、近くの者みんなで使うから、すぐ一杯になつて溢れてしもて。そやからハエがメチャクチャわいて、家の天井いっぱい、真つ黒になるほどとまりりました。それで、新聞紙に火をつけて天井あぶりまんねん。ほんなら、羽が焼けるから、バラバラ落ちて来りましたで。きりがおまへんでしたけどな」

古川さん、身振り手振りで、まるで昨日のことのように話してく下さる。

「風呂でつか？風呂は釜で湯ウ沸かして、防火水槽に入れて、水でぬるめて、近所の者みんな順番で入りましたがな。何の囲いもない露天風呂ですわ。そこへ男も女も入りました。そらにぎやかでしたでえ。染め物の釜で沸かしたから青い湯ウになつたり赤い湯ウになつたりで、ほんまに温泉みたいやつた」

しかし、何とたくましく人たちだろうか。

■出石アカル（いずし・あかる）一九四三年兵庫県生まれ。「風媒花」「火曜日」同人。兵庫県現代詩協会の役員。詩集「コーヒーカープの耳」（編集工房「ア刊」にて、二〇〇二年度第三十一回ブルーメール賞文学部門受賞）

鏡の中のサングラス

中野 順哉

絵・題字 平田 郁

「タカシ美容室」…見慣れない南仏風の店構えは多くの人の目をひいた。流行といえは猫も杓子もサスン一色になりかけていた時に、突然顔を出したこの店にやってくるのは比較的落ち着いた年齢層の女性たちだった。彼女たちは友を呼び、その友人が又新しいお客を呼んでくる、そんな調子で店は順調に回転していった。僕は以前のように「何をどう考えるべきか」といった悠長なことは最早考えてはいなかった。それよりも「美しくなりたい」と願う頭が次々と目の前に現れ、もつとはつきりとした現実として僕を取り囲んでいた。そこに見えるのは確固とした頭髮の形と、漠然とした人々の思い…それらを見極めることに日々追われ、そしてそれが快感となり、習慣となつていった。

この人はどうなりたいのか？この人の髪質はその思いにどう合致するのか？その接点を忠実に追いかけると、流行というのはエッセンスでしかなくなつた。日本に何をもたらすのかなどという妄想よりも、満足げに鏡を眺めるご婦人

たちの笑顔。そこに彼女たちの発見があり、その発見が彼女たちの周り明るくしてゆく…そして「発見」は僕自身が提示する。

安藤先生のところに行った時とも、また増岡と店を開いてあくせくしていた時とも全く違う自分がいる。意識はしなかったが、気が付くと、まるで航跡のような足跡が白く輝いている。充実というのだろうか、僕は前に進んでいることを実感した。そんなある時、ふと僕は何気なく手元にあつた美容雑誌を手にとつた。ぱらぱらとページをめくると有名なイギリス人の美容師がヘアスタイルについての理論を展開していた。しばらくじっと読んでいたが、驚きのあまりに僕は雑誌を投げ出してしまった。

「どうして今になってこんな当たり前のことを書いているんだ…」

この体験は僕に自信を与えた。というよりも、もう誰の手も借りずに、自力で壁を登つてゆくしかないんだという思いにただただため息が漏れたというのが正直なところだった。

「理論じゃない。理屈でもない。人の心をどれくらい受け入れることができるかが勝負なんだ。人を知り、人の思いを受け入れる…その幅が広くなればなるだけ、お客は輝いてこの店を出る。美容であれなんであれ道は道。究極は…愛するってことなのかもしれないな…」

すこし大きな声の独り言。閉店後の鏡に映った自分の顔を見て、さっと僕は赤くなった。

あつという間に五年の歳月が流れた。一九八一年、僕は三十三歳になった。店は益々忙しさを増し従業員も増やした。従業員に対して僕は安藤さん仕込みの強烈なヒエラルキーを与えなかった。義務も与えなかった。それでも彼らは懸命に働いていたし、腕も上げていった。何も言わなくても店はいつも綺麗だったし、彼ら一人ひとりにお客もつき始めていた。



ちようどその頃、神戸という街自体にもわか
に活気付いていたようだった。「最小の経費で
最大の市民福祉」を理念とした神戸の都市経営
は全国的にも注目されつつあった。中でも山を
削りその土をもって海を埋め立てるといふ発想
は「ポートピア」と呼ばれる人工の島を生み出
し、そこで三月から博覧会が開かれ、毎日多く
の人を神戸に招いていた。まさに「株式会社神
戸市」は、戦後復興の見事なモデルとなってい
たようだ。この勢いを見越してか、それとも僕
のわがままに抗しきれなかったのか、音楽家の
延原も神戸に住むようになっていた。彼は毎朝
開店前に店に顔を出しては僕を朝食に誘った。
そのうちある店が二人にとって「朝食専門」の
喫茶店となり、自分たちで持ち込んだはちみつ
などを置いてもらうようになっていた。

延原も相変わらずとても忙しそうだった。何
でも室内楽団体の経営の上で、何らかの大きな
賞を受ける必要があるとかで、顔をあわすと二
言目には「サントリー音楽賞」という僕にとつ
ては耳慣れない言葉を口走っていた。

「それってそんなに大事な賞なん？」

「まあな……ここ五年のうちにどれれば万々歳
というところかな？」

「団体のため？それとも自分の名誉？」

延原は最近少し薄くなってきた頭を両サイド
の毛で隠そうとしながら、眼鏡をはずした。

「そんなもん……自分のためやったらここまで
一生懸命になられへんで。僕らの活動は文化的
には大事なことももしれんが、参加してる連中
にとってはそれ以前に生活もあるやろ。巻き込

んだ僕にはそれを何とかせんとあかん義務があ
る。団体の経営に必死になるのもそのためや」

「やっぱ君は人のためにはかり奔走してい
るんだね。でも、本当にそれで団体っていうの
は発展するのかい？君が偉くなって……少なくと
ももったもったいぶった、尊大な男になってい
かないと、結局は団体を躓ずらせるんじゃないか
な……少なくとも毎朝僕と朝食を取ってちゃ駄目
だよ」

「ははは……おおきに。あんたくらいやな、
僕のことを持ち上げてくれるんは」

そんな話をしながらも二人の間には、どこか
明日は明日でなんとかなるだろうという楽観的
な気分が漂っていた。漠然としていたが将来は
明るい、どこかで強くそれを信じていたのだ
ろう。この街の発展とともに……。

そんなある日のこと。閉店時分の店の前に一
台の外車が止まった。中から飛び出すように一
人の男が降りてきた。男はぐいっと店の扉を開
けると店員には挨拶もせず、まっすぐ僕のほう
に向かってきた。増岡だった。

「よう！」

懐かしい声に思わず背中がぞくつとした。僕
は店員に染色用のコンブを渡すと、そつとお客
から離れ、増岡を店の隅に引っ張っていった。

「元氣だった？」

「ああ、まあな。随分盛況じゃないか」

「うん……まあね」

「新聞記事を読んだぜ。神戸をバリにするん
だつて？頑張ってるじゃないか」

「ああ……あの記事」

延原が連れてきた新聞記者にいろいろと話していたことが先週記事になっていた。増岡はそれを目ざとく見つけたに違いない。相変わらずだと思っ一方、何か昔いじめられたガキ大将にでも会うかのような気分で、店員の手前僕はち

よつとどぎまぎしていた。ようやくそれを悟られないように気を落ち着かせて「今、最後のお客なんだ。直にすむからそのソファに座って待っててくれよ」と言った。増岡は軽く頷くとソファにどっかりと腰掛けてタバコに火をつけ

た。

最後の客が帰ると僕は増岡を連れて外に出た。簡単に夕食をすませ、よく立ち寄るスタンドバーに入った。

「連絡の一つでもくれれば良いのに。いつ日本に帰ってきたの？」

「帰ってきちゃいないよ、ちよつと立ち寄りしただけさ」そう言つて増岡はバーボンウイスキーをかたむけた。

「すぐに出てゆくよ。シンガポールにね」

「シンガポール？」

「そうさ、まさに新天地だよ。新しい店を出すことにしたんだ。パトロンも見つけたし」

「そいつはすごいね。でもそれだったら何だって日本に立ち寄ったの？」

増岡はぐつと一息でグラスを空けると、もう一杯頼んで眉をよせた。

「君にちよつと相談があつてね…。今度の店、一緒にやら



ないかと思つてさ」

「え？今度の店つて…シンガポールの？」

話の成り行きはなんとなく予期していたものの、余りの唐突さに僕は大きな声をあげてしまった。その様子をさもおもしろげに見つめながら増岡は続けた。

「知らない国で店を出すなんて途方もないと思つているんだろ？でも心配ないよ。その店がうまくいけば今度は東京に一店舗ランチを作るんだ。その時は君にオーナーになつてもらお



うと思つているんだ。どうだい？悪い話ではないだろ？」

「でも…僕は今自分の店もあるし、満足もしている。わざわざ場所を変えるなんてことは…」

「本気か？おいおい、しつかりしてくれよ！まさかこの神戸が流行を生み出すなんて本気で信じてるわけじゃないだろ？少なくともこんな所でご婦人がたの頭を弄繰り回してたつて、君はいつまでたつても業界のリーダーにはなれないぜ。リーダーになれないつてことは、いつま

でたつても客は君のこと、半信半疑の目で見続けるってことだ！そんなことで良いのか？」

「それでええんや」

とその時増岡の後ろから勢い良く声が割り込んできた。増岡はさつと振り返り「なんだ君は！」とにらみつけた。果たしてそこにいるのは延原だった。僕は増岡の肩をぼんと叩くと

「増岡、いいんだよ、そいつは僕の友達で延原って言うんだ。音楽家だよ。延原、紹介するよ、安藤先生のとこで修行中に出会って以来の友人で増岡……とこでよくここが分かったな」

「さつき店に電話をしたんや。そしたら昔なじみと出て行ったって店の子が教えてくれたから、もしかしたらと思うてここに來たら案の定。そやけど話は聞かせてもろたで」

そう言つて延原は増岡をにらみつけると、語気を多少荒げて言った。

「あんなあ、あなたは一体全体何がしようて美容してるんや？美容かて芸術やないか、芸術やるのに神戸も東京もシンガポールもあるかいな、ええ加減にせなあかんで」

「君、失敬な男だな！」

増岡は顔色を変えて、息も荒くなりながら、ようやく怒気を抑えるように抗弁しようとした。しかし延原はそれを許さなかった。

「やかましい！黙つて聞け！芸術にも色々あるけど、究極のところは人が相手の仕事やないか。その業界でリーダーになりたいたいのは分かる。人間や、そんな業もあるやろう。そやけどそれになんで孝が必要やねん。孝は孝で自分の店を持つて、そこで人と触れ合いながら精

進重ねてるんや。あんたみたいなこと言うてたらシンガポールに行こうが、ニューヨークに行こうが何にもならへん。大体あんた、孝の話では一緒に留学したそうやないか。孝はそこで何か見つけてきたぞ！あんたはなんや！そこで何か見つけたんか！ほんまに何か見付かったんやったら、わざわざこんな所には来んやろ！違うか！あんた、自分がふらふらしてるから、仲間を誘つて安心しようと思うてるのと違うか」

その後口論というよりは延原の一方的な弁舌が小一時間続いた。増岡は何度か反撃を試みたが結局は白旗を振つた。そして「じゃあな」と一言残すと、そそくさとスタンドバーから飛び出していった。

「ちよつと……やりすぎと違う？」

僕がそう言つと延原はにこりと笑つて「そやな」と舌を出した。

「そやけど、やり過ぎやと言う割には、なんかすつきりしてるやないか」

今度は延原が口を尖らせた。

「今夜はじめてさ、あいつの肩を僕がぼんと叩いたのはね……」

「なんやつまらん」

結局その晩は二人で朝まで飲み明かすことになった。



■中野順成（なかのじゅんせい）
一九七〇年生まれ、関西学院大学文学部フランス文学科卒業、日本テレマン協会代表代行、上方講談の作家でもあり、すでに二〇を超える作品が上演されている。



「第18回世界心身医学会議」に出席されるため、8月21日天皇・皇后両陛下が神戸に。兵庫県公館で井戸兵庫県知事と昼食をとられ、震災被災者を氣遣われる質問をされたという。写真は沿道の市民にお手を振られる美智子皇后様。



第3回ユニバーサルデザイン全国大会



高齢者や障害者をはじめ誰もが暮らしやすいユニバーサル社会のための「第3回ユニバーサルデザイン全国大会」が8月17・18日神戸で開催された。シンポジウムや、障害者や妊婦なども着やすいおしゃれなファッションショーなどが行なわれた。



2005メリケン地蔵盆開く

メリケン波止場のお地蔵さんに祈念する「第19回メリケン地蔵盆」が8月21日しめやかに。再度山大龍寺・井上師の法話、ジャズクインテットのライブなどを楽しんだ。



コウベスナップ

こうべ 海の盆 2005

←地元市民や、さまざまな国の人々が一緒に踊るのが特徴の「2005年こうべ海の盆」が8月20日メリケンパークで賑やかに。国際盆踊りコンテストには浴衣姿の外国人も多数。

↓明石市伝統文化こども教室は、日本舞踊や上方文化、舞台演出やダンスを学ぶ子ども教室。7・8月に全6回にわたり中崎公会堂で開かれた。写真は子どもたちに日本舞踊を教える大和松壽さん。



明石市伝統文化こども教室
矢田立郎さんを励ます会
一現神戸市長「矢田立郎さんを励ます会」が8月31日新神戸オリエンタルホテルで開かれ、経済・文化人が多数集った。





震災10周年メモリアル
フェニックス・ジャズ・フェスティバル



↑震災の年から始まった「フェニックスジャズフェスティバル」が、今年も8月28日神戸文化ホールで。震災メモリアルジャズ・オーケストラの演奏時には震災直後の街、復興した街の写真がスクリーンに。アメリカの名門・パーカー音楽大学から学生、教授陣のバンド、今回はゲイリー・バートン率いる若手演奏家の「Generations」が登場。



↑美容室「IMAGINE」が開催する写真展「100人の笑顔展」が9月3～8日トアギャラリーで開催。美容室を訪れたお客さんやスタッフの笑顔、イラストなど、思わずこちらも笑顔になってしまう写真展。



一日本画家の片上香苗さんの個展がギャラリーミューズで開かれた。

ミプロキッズフェア 2005



↑福祉機器、ユニバーサル玩具の体験や、車椅子のスポーツ教室などが開かれる「ミプロキッズフェア2005in神戸」が9月10・11日ニチイ学館ポートアイランドセンターで。同日、開港前の神戸空港で、車椅子陸上競技のトップアスリート・廣道純さんと子どもたちが車椅子マラソン教室を。



↑(株)ヒサコネイル創業30周年、ヒサコヤマサキネイルスクール開校20周年記念パーティが開かれた。高齢者を訪問してのネイルケアなど、心を癒すネイルセラピーを目指し、活動を続けている。写真はあいさつをする山崎比紗子代表取締役。



↑今年12月に開催される「震災10年神戸からの発信・フィナーレ〜ありがとうそして明日からも〜」の記者発表会が、会場となる神戸ウイングスタジアムで行なわれた。ゼネラルアドバイザー・ばんばひろふみさん、プロデューサー・森下悦伸さん、竹中幸雄事務局長が出席、ミュージシャンが集まり音楽とトークで楽しいステージと説明。



北野観月会
九九の会々々場
至成七年九月九日 午迄前席
全席五〇〇円

↑9月9日、北野天満神社で「九九の会」開催。神社内の舞台にさまざまなアーティストが登場。写真は、インド古典舞踊家・藤原真奈美さん。

一鶴田稔万とSONARコスベルライブが、8月28日六甲のライブハウス「メイデンボエッジ」で。ソウルフルなライブの最後には、鶴田率いるコスベル教室の生徒たち数十名が舞台上に上がった。

↓カラオケスナック「ちか」主催なつメロ歌謡ショーがポストクラブで開催された。

